

新中米だより

平成27年4月27日(月)発行
第1号

～種粃(たねもみ)の発芽～

^{たねもみ}種粃とは、種にするお米のことです。中身のつまった良い種粃だけを、土の入った育苗箱(苗を育てるための箱)にまきます。

水分・温度・酸素の条件が揃うと、種粃の胚が活動を始めて発芽となります。発芽には、光はとくに必要ではありません。種粃は、根と芽の若い植物である“胚”と、養分の貯蔵庫である“胚乳”とに分かれています。胚は、胚乳の養分を根や芽を作る材料に利用します。

発芽の第一段階は吸水です。吸水して胚の容積が大きくなると、胚の上部のえい(粃殻)が割れます。ここから、さらに吸水します。水分が13%以上になると呼吸がさかんになり、細胞の分裂や伸長が始まります。発芽時の水分は約20～25%です。この状態を

「ハト胸状態」と言います。稲の発芽温度は、約30～35度が最適とされています。最低温度は約10～12度、最高温度は約40～42度です。ハト胸状態でまかれた種は、その後、えいが割れて、芽が出て、続いて根が出ます。種粃から根が出るまでは、胚乳の栄養を利用して、根が出ると、土のなかの水を吸収し始めます。水に溶けている養分を吸収して、利用します。



種粃

種粃のつくり



種まきが完了した育苗箱

育苗箱に土を入れて、種粃をまきます。その上に、さらに土をかぶせると完成です。

石拾いボランティア、ありがとうございました！

4月25日(土)に行われた実習水田の石拾いボランティアでは、石拾いのためだけに登校してくれたり、部活後や部活の途中に手伝ってくれたり、多くの方が参加してくれました。また、保護者の方、先生方にもご協力いただきました。田んぼから、かなりの量の石を取り除くことができました。

ご協力、ありがとうございました。

